

様式第3号

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)	平成23年度 第7回 川西市社会教育委員の会		
事 務 局 (担 当 課)	教育振興部 社会教育室 (内線 3421)		
開 催 日 時	平成24年1月19日(木) 13時02分～15時05分		
開 催 場 所	市庁舎 202会議室		
出 席 者	委 員	生田議長、佐道副議長、渡邊委員、末澤委員、安藤委員、 岡田委員、田中委員 計 7名	
	そ の 他		
	事 務 局	谷社会教育室長、大屋敷こども家庭室長、山元こども・若 者政策課長、金淵こども・若者政策課主幹、片山主任、 藤巴主事 計 6名	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	3名
傍聴不可・一部 不可の場合は、 その理由			
会 議 次 第	1. 開会 2. 前回会議録の承認 3. 報告事項 (1)各協議会の会議報告について (2)その他 4. 議題 (1)平成23年度年間研究テーマ「学校・地域・家庭をつ なく社会教育のあり方」について (2)その他 5. その他		
会議結果	別紙のとおり		

審 議 経 過

NO.1

議長	<p>皆さん、あけましておめでとうございます。</p> <p>本日は、お忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。</p> <p>定刻になりましたので、ただ今から、第7回の社会教育委員の会を開会させていただきます。</p> <p>まずはじめに、本日の委員の出欠についてであります。小柳委員さん、岸本委員さん、上西委員さんからご欠席のご連絡をいただいております。他の委員さんは全員ご出席であります。</p> <p>本日は、この後、社会教育委員の皆さんと教育委員さんとの意見交流を3時半から設定しておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、教育委員会事務局並びに市長部局からご挨拶をいただきたいと思っております。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">社会教育室長からあいさつを兼ねて、「花ばたけ」、「笑顔ときめき」、「青少年センターだより」等により、下記の内容等についての説明がなされた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度の9か月間を振り返って、社会教育部門及び生涯学習部門を中心に説明がなされた
議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、次に、こども部の方から室長さんが見えになっておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">こども部こども家庭室長よりあいさつを兼ねて、リーフレット「川西市PTCA青少年フォーラム」や「かわにしトークセッション」により下記の内容等についての説明がなされた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月28日開催予定の川西市PTCA青少年フォーラムについて、メインテーマや行事の内容等の説明 メインテーマ『未来へのチャンス 信じること、伝えること、つながる可能性』 ・2月29日に開催予定のかわにしトークセッション「夢の入口、発見」について、行事の内容等の説明 アルピニストの野口健さんによる「夢」や「目標」といったテーマでの講演と講演者を交えての若者同士の意見交換など
議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、2番目の「前回会議録の承認」についてであります。</p> <p>お手元の方に配付しておりますので事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、11月24日に開催されました平成23年度第6回の会議録についてご説明いたします。お手元の会議録の写しをご覧いただきたいと</p>

<p>議長</p>	<p>存じます。 会議録につきましては、従前どおり、1頁目には会議日程あるいは出席委員などを記載いたしております。また、2頁以降につきましては、会議次第にもとづきご協議いただきました経過等について調製させていただいております。 なお、報告事項の部分でございますが、一部、報告事項が長くなっているということもございますので、報告内容の要約のみを記載いたしておりますので、その点ご了承いただきたいと思っております。以上で、ございます。</p> <p>説明は終わりました。 ただ今のご説明について、何かご質問等はございませんか。</p> <p style="text-align: center;">(発言なし)</p>
<p>議長</p>	<p>特に、ご質問もないようですので、前回の会議録をご承認いただいたものいたします。</p>
<p>議長</p>	<p>次に、3の報告事項に入ります。 まず、(1)「各協議会の会議報告について」であります。 委員さんの皆さんで各種協議会などにご出席いただいていると思っておりますけれど、前回、11月の社会教育委員の会から今日まで、約2ヵ月ございましたが、その間、委員さんの方からご報告していただくような事項がありましたら、よろしく願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">(発言なし)</p>
<p>議長</p>	<p>私の方から、成人式についてご報告をさせていただきます。社会教育委員の代表ということで成人式に出席させていただきました。20年前に、私も成人式、役所におった時代です。20年も経ったら成人式の中身が変わってくるのかな、子どもの状態も変わってくるのかなと、感慨深く、成人式に行かせていただきました。非常にいいですね。若い子たちの成人式のああいう部分は、誓いの言葉的なことが多かったんで良かったなど、と同時に、今まで育てていただいたお礼も述べながら、三人が誓いの言葉を言っておられましたので、なかなかしっかりしていて。やっぱり、いいなという感じで個人的には見せていただきました。</p> <p>他に、委員さんの方でございませんか。</p>
<p>I委員</p>	<p>2月の15日の水曜日に、川西市人権教育研究大会がございます。私は残念ながら、都合で出席できないんですが、テーマとしては、「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう！。人と人とのつながりを大切にしながら、くらしと地域に生きる人権文化を創造しよう！」ということで、講演としては、“ありのままを生きる”～がい</p>

審 議 経 過

NO. 3

議長	<p>は一つの 生きるかたち 一つの 文化 ~ということで、川西市子どもの人権オンブズパーソンの浜田寿美男さんのお話がございます。分科会では、人権確立をめざす 保育 の創造というものと、人権文化の創造という二つの分科会を開催されて、就学前教育部、小学校教育部、進路保障部、特別支援教育部の方々の報告と、もう一つが、桜が丘小学校のPTA他、清和台小学校区の人権啓発サポーター、緑台小学校の関係、久代小学校区の人権の方、それから行政の市民生活部の方々から報告が予定されております。情報として、提供させていただきます。</p>
議長	<p>ありがとうございました。 ただ今の報告等について、何かご質問等はございませんか。</p>
B委員	<p>議長から報告がありました成人式ですが、今の成人式はどのような形になっておるんですか。実行委員会形式になっておるんですか、教えていただけませんか。</p>
事務局	<p>実行委員会方式で何年かされたそうです。なかなか実行委員さんが集まらない。そういう状況があって、最近では社会教育室の方で主にやっております。やりかたというのも、会場が総合体育館とかでやられてた時もあったようですが、ここ十年ぐらひは文化会館大ホールで行っています。第一部の式典、これは市長、議長や来賓からの祝辞、お祝いの言葉、それと、二十歳の方の「はたちの抱負」というのを公募で募集しています。それとあと、音楽関係とか、発表される方も公募してるんですが、その方については、ここ2～3年はなかって、植村花菜さんなんかは、一応、公募で応募いただき、16年、7年ぐらひまで出ていただいた経過があるみたいなんです。今年は公募をしましたら、お一人、「はたちの抱負」の方があって、あと二人は推薦があつて3人。21年度が3人、22年度が2人です。先程、議長がおっしゃったように、しっかりしたご意見を述べられて、そこへ参加された新成人の方も熱心に聴いていただいている。私が担当して3年目なんですけど、1年目は文化国際交流課の方から、源氏まつりのビデオとプリンセスの方から説明会を、オープニングセレモニーという形でやっています。それで、その間に、出来るだけ新成人の方に中に入っていたいただいて、昨年からは、国歌斉唱、今年もそうなんですけども、東谷中学校の2年生で、川西の金太郎で出られて、独唱されて、非常に声量の豊かな方で、2年間続けて、今年、中2ですかね、リード的に歌っていただいていた、静粛な雰囲気になってからご挨拶をいただきました。市長、教育委員長、市議会議長、あと国会議員と県会議員のお二人で、6人ほどあるので、その間、騒々しくなるかなと思ったんですけど、それも、割と熱心に聞いてくれました。あと、ここ5年目になるんですけども、梅花女子学園の方から、チアリーディング、非常に練習されて、舞台の上で、3段、4段になり演技されました。皆さん、成人の方も、非常に成人式で記憶に残ったというのは、あの素晴らしい演技が記憶に残ったということです。</p>

	<p>梅花学園の中学部と高等学部の部員も、年々増えてきまして、今年は80人から90人ぐらいで、舞台いっぱい演技をさせていただいております。「元気、勇気、笑顔」でしたかね、そういう掛け声で好評なので続けてきたところです。毎年、来ていただきます来賓の方は、市議会議員さんにしても、来賓の方は同じ方なので、ちょっとマンネリ化してきたんかなと言われているんですけど、声を聴きましたら、はたちの抱負を述べられた方とか、こられた方には割と好評なので、予算的にも割と助かりますので続けてきています。これからを考えていかなければとは思いますが、社会教育では青少年の方、二十歳、十八歳、対象の方の事業といったらほとんどないし、したところで、なかなか集まってこられない。どちらかというと高齢者、団塊の世代が対象なので、各市、成人式を実行委員会方式でやられているところは青少年局が主体にやっておられる。南阪神というか、神戸、尼崎、芦屋から伊丹ぐらいまでは青少年担当で、宝塚、川西、猪名川町は社会教育、昔は全部、社会教育部門でしたが、だんだんそういう流れになっております。長くなりましたが、そういう状況です。</p>
<p>B委員</p>	<p>懸念しておったのは、僕らの経験からしたら、“うるさい”ということしか残っていないから、そのへん、今の新成人が幾分おとなしくなったというか、常識をわきまえたというか、そういうふうな時代になってきたようになってきたのかなと思って、いま聞かせてもらった。</p>
<p>事務局</p>	<p>それは、あまり変わらないと思うんですけど。来られて、懐かしいんですか、なかなか中へ入られないのが現状で、外に百人位おられるんです。それをカウントしていないので、入場者数が6割位になるんで、それが一つの課題なんですけども。中では、おとなしくなられたというよりも静かに聞いていただく雰囲気は出来てきているんかなと思います。</p>
<p>B委員</p>	<p>集中できるような催しものがあれば、聞く方も真剣に聞くだろうし、選択が上手くいっているんかなと思ったりしてるんですけど。</p>
<p>議長</p>	<p>いま、マンネリ云々と言われたんですけど、この捉え方は、私自身は、子ども目線というか、俗に、成人式に出席される方は、毎年、毎年、新しいんですよ。だから、企画する大人サイドが、そのように思うだけのこと、イベントやったり、何かするときに陥りやすいんですよ。私も教育現場にいた時代に、その視点というのは、大人サイドで同じようなことをやっているようなんだけど、こういう子どもたちや若者は、みな、はじめての場面ですので、陥らないように、常に考えていかないといけない。子ども抜きの話の論議に、どうしても、こういう青少年の問題やら、子どもの問題を考える時に陥りやすいなということを感じております。</p>
<p>議長</p>	<p>その他、何かございませんでしょうか。</p>

(発言なし)

議長

それでは、4の議題の方に入らせていただきたいと思います。

今回と次の委員の会で、我々、2年の任期が終わるわけなんです。それで、前回も同じ論議をいたしましたけど、川西の、この会議は、ほとんど委員の皆さんの中でテーマを決め、そして論議をして、教育委員会事務局の方へ本年度の報告をすることによって、施策に少しでも役に立てていただいたらいいというような形のスタートでございますので、他市と違いまして、みな、独力の形で各委員さん頑張ってください、非常に中身のある形で進んでおったのではないかなというように思っております。

何回もお話をしてますけど、私たち委員は独任制の委員ですので、この会そのものが決議機関でも何でもございません。各委員一人一人の責任の下で教育委員会に意見表明をすることができる、他の委員とちょっと違う独特の立場でございますので、そういうことで、前回、皆さん方に課題を申し付けて申し訳なかったんですけど、今日、もう一回あるんですけど、それぞれの社会教育委員として、テーマ抜きの中で、この一年間、社会教育委員として感じられていること等々について表明していただいて、我々、委員同士の中で力量を高めていく形の中で、また、教育委員会、あるいは事務局サイドのほうへ参考にしていただければということで、レジュメを提出していただきまして、ありがとうございます。まだ、間に合わなかった方は、次回、2月の時で最終になりますので、その時に、もう一度、前回、私の方から提起をさせていただいております“まとめ”の部分、2ページにわたる部分も、再度、今日、討議をしていただくために資料として配付しております。

そうしますと、各委員の皆さん、申し訳ないです。宿題が手元にいらっしゃると思いますので、それぞれ各委員といたしまして、お手元のコピーをもとにしながらで構いませんので、社会教育委員として、この一年間考えられたこと、委員として思っていること、あるいは、個人的な見解、疑問点を表明していただきたいと思います。

そうしますと、I委員さんからお願いできますか。

I委員

書かせていただいたとおり、いつもたくさんの資料を準備していただきましてありがとうございます。どれだけのものが自分の中に入ったのかなと、1年を終わりました、2年間の任期を終わって、私としましては、ずっと続いて、最後の年になるので、本当にお世話になってありがとうございましたというのが一番大きいです。この期間に、たくさんいろんな所に勉強に行かせていただいて、形としてはなかなか残っていないんですが、自分の中にたくさんいろんな考え方が入ってきたなと思っております。それは、今まで自分がいろいろなところで関わったりとか、自分が人を集めて、いろいろなことをやってきたことは自分で考えて、自分でこうやったらいいだろうなという考えのもとだけで、周りの仲間とともにやってきたんですが、いろんな所へ行っているいろんな話を伺うと、その方向だけではなく、た

くさんの方に伝えることの大切さであったりとか、一度に大きく伝えるだけではなく、隣の人に声をかける大切さであったりとか、伝えることの大切さというのを、本当に、一番、強く感じたことです。伝える方法って、私なんか主婦からただやっているだけなので、自分でポスターを作って、広報室に行って、すみません広報板に張りたいので印鑑くださいという形であったりとか、そういう市民が出来る一歩ずつを踏まえてやってきたんですけれども。それだけでないものというんですか、こういう所へ、こうやって寄せていただくんだから、もうちょっと広い範囲で何か出来ることがないのかなといういろいろ考えたりしたんですが、なかなか出てきません。

つい最近、市役所に住民票を取りに行った時に、座っていたら、たまたま、きんたくんのビデオが流れていて、物凄くインパクトが強かったんです。ああ、川西って、こんなことをやっているんやと、すごい、自分の中に入ってきて、目で見ると動く映像の強さというのをすごく感じました。出来れば、川西市で活動しているいろんなものをあそこで流せたら、市民は替わりばんこに、何かしら来られるので見ていただく。川西ではこんなことをしているんやなど。こういうことがありますので、どうぞお出で下さいというお知らせだけではなく、こういうことをやりました、こういうことが出来ましたというようなものを見ていただくことも大事なんではないかなというふうに強く感じました。それは、川西はこんなことまで出来ているんだということを市民の方に伝える必要があるんじゃないかということが、一番、大きく感じたところです。こういうことをやりますのでどうぞというのだと、自分に興味のないものにはなかなか言葉が届かない。そういうものなんです。結果を見ると、自分は興味はなかったんやけど、あっ、こんなことが出来ているのか、これって面白いかもと、そういうものが心に響くのではないかなと思いましたので、そういうふうな工夫が、もししていただけるのであれば、是非ともお願いしたいなというのが一つです。

もう一つは、ここに来られている皆さんもそうなんですけども、いろんな組織の中で、それぞれの活動をなさって、活躍なされて、外に出られて多くの方に声もかけられてという活動をそれぞれされていますが、この会に来た時に、私たちは何か一つ繋がったかなと思うと、なかなかそういうことがなかったなというのが、一つ大きな思いであります。一緒に何かをしようというのは、それぞれ分野も違いますし、考え方も違いますので難しい点もあるかと思いますが、川西市全体として、それぞれ活動されている組織が一つで、専門的に、系統だてて、つなげていってくださる方がどうしても必要なんじゃないかなと強く感じています。それには、社会教育主事というものがあるというのを改めて知りまして、もし、そういうものがあって、そういうことをしていただける機能が働くのであれば、是非とも、どなたか、そういう勉強をプロとしてやっていただいて、川西市に置いていただいて、川西市の社会教育のために、全体的に見通してやっていただくという方を作っていたらありがたいなと。それが、これまでやらせていただいて感じたことの二つです。

議長

ありがとうございました。
次に、B委員さん、お願いいたします。

B委員

私自体は、ここの前文で、平成23年度は自然災害に関わって嫌な年であったというふうな記憶が一番大きなわけではありますが、これに打ち勝つためには、やはり自然に逆らうということではなくして、自然と上手く調和を図って、逆に、融合できないものかなという、その方に、今後、力を入れていった方がいいんじゃないかと思ったような状況、それから、最近の世相、皆さん方よく承知しておられますように、子どもに対する虐待、特に、親からの虐待、それから通り魔的な殺人事件が全国で横行しているような状況、それと政治の世界の混迷、経済の低迷等がずっと続いており、世の中がそれによって非常に暗くなってきているなというふうに捉えておるわけです。その中で、私たち社会教育委員として何が出来るのかなというようなことを、やはり、受けた以上は考えていかないといかんわけですが、あまり、高度な解釈をしておりますと、なかなか取り組みが難しくなってしまうので、出来るところからやっていくという実践型に切り替えていった方がいいんじゃないかというようなこともございましたので、私自体の心の中でそういう思いが芽生えまして、昨年度は私が30年間関わってきました川西一庫ダム周遊マラソンの運営方法、これを改善せんことには、いつか組織が潰れてしまうんじゃないかというような心配を常々から持っておりましたので、たまたま、私、いま、陸協の会長、体育協会の副会長も承っており、幸いに、社会教育委員という職も承っておりますので、そのへんを合体させた中で改善を図っていかうという思いで、昨年、一年、手がけていたわけでございます。今までは、市体育協会自体は、このマラソン大会には参画されておられませんでした。これは、なぜされてないかという理由は私自体も理解はしていないんですけど、してないことは事実でしたので、やはり、スポーツの団体の長である川西市の体育協会が、やはり、こういうスポーツイベントには、顔を出すという前提を作っていくといかんんじゃないかという思いもありますし、それと、今現在の実行委員会形式の中での友好団体メンバーの高齢化というのが事実として出てまいりました。そういうような中では、やはり、必然的に、その友好団体の組織自体が、みな高齢化によって解散に追い込まれているような状況はあるわけございまして、そういうことでは、団体数の減少によって、この実行委員会形式が継続できないというような危機感を私自体が感じましたので、この23年度、体育協会、それと市商工会の一つの大きな組織を実行委員会のメンバーの中に入れて、この大会自体が、この先、50年、100年にわたって続けていけるような組織づくりをこの一年でやってしまいたいというような思いもありまして、努力を重ねてきたわけでございます。そういう中で、体育協会にしる、商工会にしる、意識を理解していただきまして、参入をしていただいたというような中で、今後、この大会自体をますます盛大にするには

	<p>どういふふうにしたらいいかということは、即ち、予算が関わってまいります。それで、予算の編成からしますと、歳入が、大会に出られる選手たちの参加料、これが、大体、歳入の67%程。それと、市の補助金が15～16%くらいの比率で補助金の位置づけがされておりますので、その他の協賛企業とか、友好団体からの寄付とかいうのは微々たるものでございますので、今後、市の補助金もいつまでも継続してもらえるかどうかも定かではありませんので、そういうものも踏まえながら、やはり収入の道を探っていきたいということと、もう一点は、収入も然りですが、それ以上に、収入によって支出が確定してまいりますので、支出の方を抑えていって、出来るだけ少ない経費で大きな成果のあがるような知恵を出して、この大会が意義ある大会になるようにというような思いもございまして、いろいろと事務局と方策を練ってきたわけです。30回大会につきましては、出来るだけそういうような意向で纏まってきて上手く運営が出来たように思うわけですが、今後、この考え方に則って、この一庫ダム周遊マラソン大会が末永く運営できますように祈念しながら、もっと努力をしてみたいという思いをここに書かせていただいておりますので、そういう意味で、解釈していただきたい。</p>
議長	<p>よく分かりました。内情が分かりまして、体協は絡んでなかったということ想像は全然してなかったんで。</p>
B委員	<p>陸上協会が主管でやっておりました。陸協の方も、こういう組織は、どういうんですか、自分らの圏域を物凄く守りたがるんですね。だから、陸協もしんどいけど、どういうんですか、その事業を他の団体に手放すというのは嫌がるわけです。そのへん、内部からも諫めながら外部からの方をお願いして。というのは、昔からよくいうように、野球は野球協会があるやないか、陸上は陸上協会があるやないか。だから、お互いにその線を犯すべからざるというような、特に、スポーツの世界はそれが強いんです。そういうようなことがありまして、ちょっと簡単に切り替えがということは出来なかった。</p>
議長	<p>一部を披露していただいてという形なんで、逆の意味にとらえますと、客観的に市民全体の体育・スポーツ振興という立場で、社会教育委員の立場で、所属はあるんですけど、そういう形での問題提起をされたという捉え方をしたんですけど。</p>
議長	<p>B委員さんが、こういう立場で一庫ダム周遊マラソンの内部の所を大局的に、もっと総力をあげる工夫というのをしていく必要があるんじゃないかということ、委員の立場として、現実にやっつけらっしゃるという形の中で、30回大会はこれからですか。</p>
B委員	<p>去年の11月が30回目でした。一つのけじめでしたから。</p>

議長	<p>行政の担当のところも、事務局担当がいらっしゃると思いますけど、そこらへんが、結局、社会教育分野でいったらコーディネーターの話になってくる、役割を。提起いただきましてありがとうございます。意見交流は後程にいたしまして。</p> <p>次に、D委員さんお願いいたします。</p>
D委員	<p>お手元には出してないんですけど。ミュージカルの川西の金太郎は、今年、第2回ということで開催いたしました。市の方々や出演者や出演者の家族、それから多くの皆様のご協力を得て、また社会教育委員の会の後援もいただきまして、大成功で開催することができました。</p> <p>先程、I委員さんがおっしゃったきんたくんの映像というのはミュージカル川西の金太郎の映像ですか。</p>
I委員	<p>そうです。動く映像です。</p>
D委員	<p>情報を、川西市の方々や皆さん方が発信してくださったので成功に結び付いたと思っているんです。もう一つ、郷土館の方の、ここで机上の話し合いばかりじゃなくて、実践で何か出来たらと思っていたところに、その郷土館に足を運んでもらうには、広めるにはということだったので、童謡を歌う会を郷土館でしたいという提案をさせていただいて、それを11月にさせていただいて130人~140人の方に来ていただきました。12月からは、郷土館講座として童謡を歌う会を続けさせていただいています。その12月なんですけど、来てくださった方が5人だったんです。私たち、各地で童謡を歌う会をしているんですけども、そこの方々にはちらしを渡して呼びかけていたんですけども5人だったんです。そこで、情報をもっと広く発信しないといけないと思って、ミニコミ紙とかに、館長さんに出してもいいですかと聞いたら、出してもいいとおっしゃったので、出させていただきました。そうしましたら、1月の会、昨日ですけれども、25人、2ヵ月半の赤ちゃんからお年寄りの方まで25人集まりました。その情報発信ということがすごく大切やなと、昨日、つくづく感じたんですけども。社会教育委員の会も、今どんなことをしているかということ、もっと外に発信、一番最初に社会教育委員になった時に思ったことなんですけども、昨日もそれを思っていたら、そこまで行き着きまして、もっと社会教育委員の会で話し合っていることを、どんな活動をしているかということ、もっと外に発信していった方がいいなと思いました。童謡を歌う会にしても、川西市の金太郎のミュージカルの件にしても、もっともっと他にも、いっぱい川西市の中ではいろいろ活動されている方々がいらっしゃいます。その方々の応援とか、手助けをするという意味で、私たちがその方々の情報を貰ってそこで一緒に発信していったら、もっと発展するというか、社会教育の面で、大きくなっていけるんじゃないかなと思いました。</p>

議長

ありがとうございました。

同じような考えやら、問題意識を持っていらっしゃると思いますので、それぞれの組織も持っていらっしゃる部分がありますので、それについては、後程、ちょっと、論議する必要があるんじゃないかなと思います。私は、ちょっと違った考えを持っておるんですけど。社会教育委員の会で、方法云々という、悪くはないんだけど、だから、これは事務局サイドの部分も含めての問題提起かなというような感じで、また、論議しましょう。

議長

それでしたら、E委員さんお願いします。

E委員

この一年間、いろんな各地の研修会に出席させていただきました。そこで、いろいろ発表を聞かせていただきますと、“ああ、そんなこと、川西市では公民館活動でもっと力を入れてやっているじゃない”というようなこと、大半がそんな発表ばかりだったような気がいたします。そういう意味からいいますと、川西が非常に進んでいるのかなというふうに思うんです。ところが、そういう一つ一つについて社会教育が携わってやりましたというような発表なんです、先程から、皆さんが述べておられるようにこの社会教育委員の皆様方は個人的にはすごく活動されているんですよ。謂わば、それを社会教育がやりましたというような形で、各地域は発表なさっているような気がしてならないんです。それもいいでしょうけど、私が思いますのに、先日、兵庫県の社会教育研究大会がありました、この時もそうなんですけど、“こんな紙作ってやります”とおっしゃるんで、“ああ、そうですか”と、いろいろ聞いていたんですが、それでは、その一つ一つについて紙は作られた、そういう冊子は作られたけど、それに対して、みなさん配るだけですわね。配って、どう、そこに対処されるのですか、まず“一つ目これは、二つ目これは、三つ目”と言ったら、実は、それはこれからなんですという返事が返ってくるわけなんです。紙を作って、“やります、やります”というのは、誰でも出来る。それはやったことにはならないなと、僕は、大変失礼なことであつたけど、心の中で思ってたんで。そんな紙作って、やりましたというて、やるんやったら、こんなん、やったことにならないでと。“一つ一つ、それをどういうふうにやっていくんですか”と言ったら、“いや、まだ、これからです”というわけでしょ。これからですって、それはないやろと思うんですけど。まあ、そういうことの将来的展望でそうするんですねというて、こちらが助けてあげたみたいな形になったんですけど。それでは、いかにやるな社会教育はと思ったわけです。しかし、川西の場合、ちょっと我に返って考えてみると、社会教育が携わって、何等かの形で、こんなことをやりましたという、形の上で表われるというか、そういうものがないんですね、実は。こういうことを提案して、議論するという形ではありますけれども、社会教育が携わってやったというのが形の上でない。そしたら、私どもも、ああいう研究発表にできるような、携わってやりましたよというものはないの

	<p>かなと思ったわけです。それは何やねんといわれても、なかなか難しいんですけど。一つ書かせていただいたのは、これは市を挙げてやれば、非常にいいことになるかなと思うんですが、いま、挨拶運動をいろんな所でやっておられますが、やっていない所もたくさんありますし、やっていない所の方が多いわけです。そういうことに、社会教育が中心になって、全市を挙げて、川西市全部で挨拶運動を実施していこうやというようなことに携わるとかというようなことは出来ないのか。この間は、郷土館に行って話をしていたら、先程、室長がおっしゃいましたけれど、バラ園を作りたい。ボランティアを募集して、バラは他所から提供してもらって、そのボランティアを応援してくれる人、その花園を作って、世話して、水撒いて、いろいろお世話をしてくれる人、そういう人が欲しいというようなことを館長がおっしゃったから、成るほどねという話をしたんですが。そんなこと、小さなことやけど、携わって、応援してあげて、人集めをするとか、応援をして郷土館に素晴らしいバラ園が出来たでというようなもんも、小さなことやけど、それも一つやなと思ったりするとね、何か形に残るもので、やったというものはないんやろかなと。論議して、それを提案して、お渡しするのも一つでしょうけど、何かないのかなと思っているのが、いまの私の気持ちでございます。</p>
議長	<p>ありがとうございます。これも、後程、論議いたしましょう。</p>
B委員	<p>今、E委員さんがおっしゃったように、全員が揃ってものを作り上げていくとか、仕上げていくとかいう、過去の社会教育委員さんはそういう時代があったんです。私の記憶している範疇ではね。相当、以前ですよ。今日も冒頭に議長がおっしゃったように、これは、あくまでも委員としては、独人やからというような話が出ましたね。そのへんの絡みが、ちょっと相通じない要素やなと思ったりして。せやけど、研究発表会に行ったら、確かに、各市町の話なんかを聞いていると“あんなん、しましてん”というようなことで、目に見えるような発表をされるから、その様にされているのかなと、僕は僕なりに疑問を抱きながら話を聞かせてもらっているようなことが多分にありましたので。だから、今の、この社会教育委員の会の設置主旨からするならば、皆が揃って“これをやろうか”というようなことが出来ないのかなと思ったりせんこともないんです。だけど、出来たら面白いやろうなと思います。</p>
C委員	<p>今の、E委員さんの。私も社会教育委員というのは何をするのかということがよく掴めてないんです。それで、社会教育法というのがあって、そこに社会教育委員の役割という、第17条の項目があって調べてみたんです。そしたら、第17条の1項の1号から3号まで書いてあって、1号には、まさにE委員さんがおっしゃったように社会教育委員は社会教育についての事業というんですか、立案すると書いてあるんです。案を作ると、活動について。2項目は、市の方から言われたことについて提言をする。</p>

	<p>いろんな課題を出していただいて、それに答えることかなと私は理解しました。それから、例えば、川西市の社会教育が、一体、このところはどうなっているのか、というふうに興味を持った場合にそれを調査するための費用も要求することができる、ちょっと、文言が間違っているかもしれないが、そんなことが書いてありました。ここまで、社会教育委員というのは出来るのかなというふうに思っていて、いろんな事業をこちらで計画して立案するというのが、非常にビックリしました、私は。ただ、その部分は、今、川西市では各種の団体さんがいろんな活動をなさっていることが、結局、そういう実行というんですか、社会教育の実践と実行という、我々は現実には立案していないんだけど、立案しなくても、既に実行されているのかなというように、私自身は解釈しました。</p>
B委員	<p>よくいうんですけど、行政、社会教育行政の中で、行政が市民にすべきことは施設の設置、それから指導者の養成、これと予算です。これを出来たら一人前やというように言われていた時代もあったんです。だから、僕は、それで、逆に、後は市民がどの程度希望をされるのかによって深度が全然違うやろけど、それはそれで市民がそういう欲求やったら、それに合うような対応をしていったら一番いいんじゃないかなと思ったりはせんこともなかったですけど。あまり深く追求しないようにしようかなと思ったりしたわけですが。</p>
議長	<p>お二人の委員さんから出ましたけど、くどいくらい独任制だという当たり前のことを、俗に、社会教育委員の立場はいつておるんですね。教育委員さんは、俗に、教育委員会そのものの基本的な部分と繋がってしまう一つの原点的な、俗に、社会教育委員というのは一体何んやろかと。社会教育委員も、いま、設置が望ましいというか、社会教育法もちょっと変わったんですね。いま、言われたように、私も書かせていただいておりますけど、なぜ、独任制を言うかという、私の方のあれになってしまうんですけど、いま言われた四つの項目があって、現実、各市町村に、我々だったら10名いらっしゃるんですけど、その委員が、立案して、企画して、行政全体、市全体を動かすということは、本当は出来る話じゃないんだけど、その理念は常に独任制の責任感を持たないとあかんという部分がありますので。お二人の委員が言われたように、D委員も言われたように、これを主宰して出来るかということになったら、2年任期で、教育委員会の任免のもとで、辞令をもらってやっている立場で、そこまで出来たらいいんですけど、それ、無理な話の部分、その分だけ、実は、事務局サイドの、専門でやってらっしゃるところに、どんどん提言をしていく、あるいは意見を述べていくということもやっていかないといかん。別に、意見を求められなくても、こちらで見つけて、研究をやって、このような形で、文書なり、というような形で、少しでも施策に取り入れていただく。そういうことかなという感じがするんです。ですから、今の論議というのは、大会なんかに行っても、ですから、社会教育部あるいは生涯学習部、</p>

そんなんはいらんのと違うかと。市長部局でいいんじゃないかと。委員もないところもあるんです。出雲市なんか、先端をきってこども部か何かを作ったり、市長部局との、法が一部改正になりましたから、そういうできた流れがあるんですけど。実は、一昨日、私はある所に行きまして、大学の研究室でいろいろと論議をしたんですけど、やっぱり、全国的な流れの部分があるんですけど、ただ、ぶり返しが社会教育学者さんを中心にして、もう一度、考えていく必要があるんじゃないかという、流行的なところがありますので。

私のところに入らせていただきます。個人的な見解で、平成23年度を終わるにあたってということで、社会教育委員という形で。私も8年目でございます。最後の任期になりましたけど。たくさん書きたいことはあるんですけど、個人の私見ですので、まず、新しい教育基本法の18年の改正というのが、やっぱり、法的な位置付けも含めまして、この13条の新設、言い換えれば、「学校、家庭及び地域住民その他関係者が相互に連携協力を努める」という形の中で、あらためて社会教育の重要性というのが、教育基本法にあげられたということが、物凄く影響しております。それに伴って、先程言われた社会教育法の一部改正という形で、教育委員会から離れる形の中の部分等々を含めて運用されているという法的な解釈がなされております。そこで、あらためて学校やら、地域やら、家庭の連携が大切だということを、国の基本法に述べられるというぐらい非常に重要視されてきたという前提から考えて、非常に抽象的な言葉で使っているんですけど、本当に川西に住んで良かったと実感できる営みというのを、やはり人と人との絆というのが大切だなということ。ということは、お互いが学び合ったり、助け合ったり、励まし合うことを通じて豊かな人間関係を作るには、その仕組みや場づくりというようなことが大切だということは言うまでもなく、私、この会議に関わらせていただいてちょうど8年目になります。居場所づくりであったり、システムづくりであったりというように、過去、教育委員会に報告した書類を見ましたら、結構、同じことの繰り返しの形の重要性を事務局に提起しております。この会としまして。あらためて、学校、家庭、地域を含めての地域づくりにおける社会教育の役割はここにありませうという再確認の部分を書かせていただいております。私、はじめて、この会に入りました時に、亡くなられたんですけど後藤委員さんなどがいらっやって、常に、この会に来たら、家庭教育の大切さが、必ず、食育の問題も含めて、本当に、家庭教育の大切さが、ずっとこの委員会で述べていらっやいましたし、それが主題でした。極めて、大切な家庭という問題、案外、なかなか入りにくい部分なんですけど重要性が訴えられておったなと思っております。以下、そういうことも述べたいんですけど、4点程だけ、具体的な形で、社会教育委員という立場で列記させていただいております。学校支援地域本部事業であったり、これは教育委員会が中心でやっている部分ですけど、あるいは、こども部が中心でやってらっしゃる放課後子ども教室など、川西は他と比べても負けないくらいよく活動されておるということが、実際に見ることが出来ま

すし、体験もさせていただいております。そういう中でのコーディネーターの皆さんやら、あるいはそれに関わっていただいている市民の皆さん方、これが二つの事業以外を含めてなんですけど、物凄く活躍されていることについては本当に凄いなと、他市に負けてなくて、先程、岡田委員さんが言われたように、他の報告を聞いても、川西市では、子ども教室もちゃんとやっているし、土曜日だってやってるし、公民館活動でもそうですし、地域支援本部の活動にしても図書ボランティアさんなんかの動きなんか、全く他に負けられないというようなことが、物凄く印象に残りました。と同時に、こういうコーディネーター等の皆さん方、グループ化されている部分もあるんですけど、やっぱり継続的な支援活動が出来るように、本年度も、支援本部の件で、予算が、国の方の補助金がなくなる過程の中で、きちんと予算化していただいたということは非常に良かったなというように思います。これは、今後とも、こういう社会教育部分についての補助金というよりか、その大切さ、少しでもいいですから、必ず継続して、支援をしていただきたいと思います。もう一つは、教育委員会サイドの問題になるのかなというように思いますけど、教育委員会事務局の話なんかを聞いていますと、中学校区でいろいろと内部的には連携をとって、それを一つの核として活動、あるいは充実を図っていらっしゃるという報告をよくお聞きするんですけど、個人的には、なかなかそれが、私、見えてこない。内部だけの部分で終わっているんじゃないかなということをやっと感じたりもするんですね。なぜかという、やはり各諸団体、いろいろなボランティア諸団体があります。学校教育ラインだったら、いきいき教室、いきいき応援団という形でも事業をやっておられます。同じ教育委員会内部でも。社会教育ラインでは、支援本部でコーディネーターの部分で、また予算化もされていらっしゃると。あるいは、コミュニティでこう活動されている部分があるという形で、縦割りの形の、教育委員会内部だけでも縦割りの予算の配置のような部分があるというに、どうしても気になっておるんですね。ということになれば、今、県の教育委員会が施策として出しているように、各学校ごとに教育推進会議、多分、これね、県の教育委員会がそういうことをやった方がいいんじゃないかということ提起しているはずなんですけど、川西市がどうなっているか私は把握してないんですけど。各学校ごとに教育推進会議というのを全てを網羅した形、組織に組織を重ねるということではなくって、その学校を核としたところの全ての各諸団体をひっくるめた形で学校を支援していくという推進会議ですね。これが、絶対、必要じゃないかなというように思うんです。地域支援本部サイドもやっている、コミュニティもやっている、あるいはいろんな諸団体もやっているという形で、実は、これ、学校サイドから見ると、途轍もなく、学校のために一生懸命やっているつもりなんですけど、学校サイドからみたら、あっちから、こっちからというような形の部分が多くて、例えば、学校支援ボランティアなんかにしても、この推進会議の場の中で、みな共有をしていくと、コミュニティも共有する、あるいは老人会も、あるいは地区のいろんな諸団体、青少年の問題、補導委員、

	<p>全部混じって、そういう形を作っていく必要があるんじゃないかと、ちょっと感じております。なお、学校には、ここに評議員の方がいらっしゃるかもわかりませんが、本に載った形で学校評議員という組織もあつたり、評価委員なんかもあつたりするんですけど、全部、そういうのもひっくるめて、その役割分担をきちっとしながら、そういう組織というものが考えられないだろうかということを教育委員会には述べたいなということで、三つ目に書かせていただいております。それと、四つ目でございますけど、今日は、この会議には、ずっと市長部局のこども部の方にも来ていただき、教育委員会にも来ていただいている部分があるんですけど、やはり社会教育委員として考えるならば、生涯学習施策について核が見えてこないということは個人的には感じるんです。所管がいろいろ分かれて、本当によくやっていたらいいんですけど、生涯学習という視点から考えた時に、例えば、青少年問題にしても、こども施策にしても、保育所の問題にしても、幼稚園教育のことにしても、やはり、何んらかの、川西独自の形の部分の核が見えないという部分が、物凄く気になっております。これは、組織改正、19年度に元気と潤いのあるオンリーワンのまちづくりという後期基本計画の中で、多分、その時、お話を聞きましたのは、市民の笑顔と元気がみなぎるまちづくりの一環としてスポーツ・文化施策の充実、教育所管のスポーツ・文化施策を市長部局に移管し、市民の元気あふれる活力、活気あるまちづくりを目指すという形での組織改革がなされたということを当時の室長からこの会議でお話がありましたけど、改めて、いい悪いは別としまして、3年ほど経ちましたので、これは組織の部分で再検討はされているとは思いますが、必要じゃないかなということを感じております。それと、学校教育の現場の中での、「生きる力」という形がよく使われるわけなんですけど、言葉としては綺麗なんですけど、具体的に、教育委員会として、だって、教育振興部しかありませんので、そのところを、吟味をしっかりとしないと、学校教育中心で考えたら、環境支援ということに、まず第一の力を、いま現在では入れていただかなければいけないんじゃないかということで、学力とはいったい何かというような部分を、はっきりしたメッセージをいただけたらありがたいなという思いでおります。いろいろしゃべりましたが、そういうことを個人的に述べさせていただきます。</p>
議長	C委員さん、よろしくお願いたします。
C委員	私の「平成23年度を振り返って」という原稿をかいつまんで言いますと、今年度の「学校・地域・家庭をつなぐ社会教育のあり方」というテーマで、少し気になったということなんですけど、つながっていくのは非常に良いことだし、大切なことだと思うんですけども、つながることによって、逆に、お互いの、学校、地域、家庭の役割というか、境目が曖昧になってくるんじゃないかと思いました。私の原稿にも書きましたが、たくさんの地域の方が学校に入られることで、学校サイドに負担がか

	<p>かるというんでしょうか、かかりすぎるようなことになっては本末転倒になってしまいます。やっぱり、家庭は家庭でやるべきことがあるだろうし、学校は学校でやるべきことがある。それを、繋がれば繋がるほど、各々がはっきり自覚をしていかないと、一つのところばかりに重みがかかってしまうということになって、いい制度であっても続いてはいかないのではないだろうかというふうに思いました。簡単な言葉でいいますと「親しき中にも礼儀あり」というんでしょうか、ここまでは学校がやる、ここからは地域がやる、ここからは家庭がやる。簡単にいえば、家庭での躰を学校に持っていかない、ということじゃないかなというふうに考えました。極端にいえば、放課後、子どもたちが学校の方で勉強をするような活動があるみたいです。極端にいえばですよ、放課後は、子どもたちは地域に帰す、それぐらいのことをしてもいいんじゃないだろうか。やはり、ここで出席なさっている先生方のお話を聞いていると、声を高らかにはおっしゃいませんけども、かなりお忙しい時間を過ごしておいでになるんじゃないかなというふうに思いました。他の何か、本で読ませていただいたことがあるんですけど、やはり、学習に費やす力というものが忙しさのために削げてしまうというんでしょうか、もっと、本当に、先生、学校のサイドの教師の方々には子どもさんをしっかり見る時間とか、関わる時間を最優先して欲しい。それ以外のことは、地域と家庭で支えていくべきじゃないだろうかというのが、私のこの1年間の感想でした。</p> <p>川西ユネスコ協会で開催されるチャリティジャズコンサート についての情報提供があった。</p>
議長	<p>ありがとうございます。</p> <p>一応、皆さん方の考え方を披露していただきました。そうしますと意見交換をしていきたいと思えます。これはこうじゃないかというところで、お互いに意見を戦わせてみたいと思うんですけど。皆さん方、それぞれの見識のもとでお話がありましたのでいかがでしょうか。質問やら、ご意見やら、感想やら、</p>
B委員	<p>今日、教育委員会の委員さん方と意見交換ということになってますが、内容的に、何にかあるんですか。</p>
議長	<p>議長の立場でまとめた、まだ「案」という、前回とほとんど変わってありません部分を出させていただいております。今朝ほど、修正して出させていただいたんですけど、これは、今までの7回にわたる討議を簡単に、前回と同じようにまとめておる部分で、まだまだ整理していない部分があるんですけど、これが過去第1回からの流れの部分、まだ最終じゃないんで、案というまとめ方でそのまま前回と同じことを書かせていただいております、これをもとにしながら会としての部分では、お話を、ちょっと簡単に教育委員にお話して、あとは、教育委員の皆さんと社会教育委員の皆さん方との交流をしたいというふうに思っているんですけど。如何い</p>

たしまししょうか。どうでしょうか、これ、まだ検討課題の途中なので、それにこれ抽象的なので、向こうの委員さんの方もたいへんだらうだと思えますけど、的を絞るのに。学校、地域、家庭をつなぐ社会教育のあり方ということで、今まで論議したところをまとめたものを簡単に説明だけはいたいとは思っているんですけど。特に、最初の方、委員さんのお話がありましたように、この会で郷土館なんかの充実を、やっぱり、社会教育施設の充実・拡充を図っていきたいという意見もずっと集約される過程の中で事務局サイドも、この会に館長も来ていただいて、提起する中で、早速、委員さんが中心になりながら、集客能力を高めていくというか、アイデアを上手く使っていただく中での、反省点も含めて、先程、D委員からも意見がありました。そういうような成果がある部分やら、発信の部分の問題やら、それに事務局サイドとしては、応じていただいている部分の感謝の弁も述べられたのかなと思っておるんですけど。それと、先程、最後に言われたC委員の根幹的な三者の関係のそれぞれの立つ位置の部分の明確化という部分、それらも、やっぱり、委員さんの考えを聞きたいなと、個人的には、ずっと思っていることなんです。例えば、学校教育イコール教育というような感じを持ってはいらっしゃらないと思うんですけど、その部分、生涯学習部もなくなり、あるいは社会教育室にしても、先程、言われたように社会教育主事云々というのは、遙か彼方の、昔の話のような。本当は、それは、もう、いるんですよ、実は。佐道委員が言われている部分。やはり、原点をやっぱり佐道委員が言われた部分なんかも、ということを考えて行政サイドとしてどうなのかということも、本当は持っていけたらいいなというように思うんですけど、いかがでしょうか。

B委員

川西の場合、阪神間の先進都市に負けじと、特に、社会教育分野につきましても、先輩の社会教育委員の方がたいへん努力されて、追い越せ、追い抜きの気持ちで、川西にも、各中学校区に公民館一館というような方針で、過去に進めてこられた経緯がありますし、実践活動も、決して他市町と比較して負けているというようなことは確かにはないやろと思います。どちらからいうと、川西のそういう活動をされている方は自主自前活動ということで、自分らで金を払って、自分らで好きなように活動したいんやと。ただ、会場が思っているような形で使えないというので、過去に不満があったようには聞いておったんですけど。これも、システムの改善で大分使いやすくなったということを知っていますので、有料になった要素もありますけど。だけど、そういうように先進的な方向で走っているように思うんです。しかし、そうすると、今度、社会教育委員の立場として、何かをしたいなと思っても、みんなの智慧を出し合って、一つのものを作り上げていくというのが、なかなか難しい形になってしまっているなという、先程の話のように、独任制でやっておると、そういうふうになってしまうな。そのへん、上手く調和出来て、メンバーの社会教育委員さんたちが上手く力を合わせながら、何か作り出されたら一番いいんだけど、そうしたら、いま、何かあるんやと言われたらちょっと答えに窮するが、先程、岡田委

議長	<p>員さんがおっしゃったように、挨拶運動も一つやと思いますし。だから、そのへんは、一度、みんなで心をつにして、難しくない活動が出来れば一番いいんじゃないかと思います。</p> <p>どうでしょうか。</p> <p>事務局で、見解というわけじゃなくて、アドバイ的なもの、例えば、いろいろ、社会教育委員の皆さん方で、例えば、E委員さんのような提起の問題、具体的な例えばという部分なんかになったら、我々がこのようにして事務局の方に聞くこと自体が、ちょっと。</p>
事務局	<p>どう言うんですかね。やっぱり、市民の方々の要請・意見と行政の立場として推進していく方向と差異が生じてはいけませんので、そのへんのパイプ役として社会教育委員さん、川西の社会教育委員としてはこういう施策でいいんじゃないかなという方向性を具体的に出していただいたらいいかなと。今は、パイプ役的な、大学の先生に入ってもらって、社会教育計画、生涯学習計画、そういうとこまでは、いま、考えてないんです。</p> <p>それと、先程いわれたように、行政組織が3年、4年経ってききましたので、果たして、これでよかったのか。教育委員会で持っていた体育・スポーツ、文化、芸術、今の現状、川西は進んでいると思うんですけどね。教育委員会から市長部局に移管された、その成果がどうやったかチェックをしないといけないと思っています。ここで議論していただいたもので、もう一步進んだこと、挨拶運動と言われて、ちょっと頭を悩ましておるんですけど、それは主となって、行政としてできるのかな、それとも市民の方が核となって進めていっていただける部分かなと。コミュニティでは、何個ヶ所かのコミュニティで挨拶運動をされています。各学校、中学校に行きましても、この前、他市の中学校に行きましたけれど、その中学校では生徒が挨拶をしてくれませでした。川西であつたら、川西中学校へ行っても、多田中学校へ行っても、どこへ行ってもきちっと掃除は行き届いていますし、生徒さんからは皆さん挨拶してくれます。そのへんは、川西は進んでいるという思いと、挨拶運動であれば、どこが主体で、どう進めていったらいいかなと、社会教育だけではちょっとしんどいかな、どこか核となって進める団体、婦人会とか、そういうところでいろいろされますけど、そういうのがないかなという思いがあります。それと、先程、C委員さんが言われた部分、重々、よく承知して、その通りだと思っんですけども、実際は、地域の教育力がなくなってきている。家庭の教育力もなくなってきている。では、教育委員会としては、家庭の教育力の面までも、行政として支援していかなあかんから、今年から、きんたくん学びの道場ですか、家庭に帰って勉強できない、予習、復習も出来ない生徒を、家庭の延長線で学校で面倒見ましょうかというような施策を進められているところなんで、そのへんを、どう連携して進めていったらいいかなというのが課題です。</p> <p>私どもも、社会教育委員の会のあり方、今後、どうしていけばいいのか</p>

	<p>というのが大きな悩みですし、家庭と学校と地域との連携というのが教育基本法に謳われているので、それも、具体的にどうしていけばいいのかということは全然分からない状況であります。そのへんが社会教育委員の会で協議していただければと思っています。</p> <p>B委員</p> <p>ちょっと知恵を貸してほしんですけど。今、室長がおっしゃったように、行政の感覚と市民の感覚が若干違う面があってしかりやと思うんだけど、いま一番、これ、どないしたらいいんやろと思っていることが一つあるんです。というのは、各自治会とも、役員の改選がぼちぼちかかりだしておるんです。私、今年、地域の自治会の番が回ってきたから協力させてもらってるんだけど、どういうんですか、役員の受け手がないんです。それで、話を聞いていくと、地域の自治会だけの役員なら協力はできるけど、市のコミュニティの役員も重なってくるとそれに。お出ていかないかん。そんな所へ行っても、遠いし、言っていることが判らへんし、“そんなんやったら、私、自治会やめますわ”というのが、次から次へと出てくるわけです。それやったら、コミュニティを設置した市の行政の方が何のためにコミュニティという組織を作ってきたかという考えと、いま、出てきている答えが、地域の答えが全然違うわけです。そのへんを、まず、考えていかんことには、地域の自治会がみな高齢化してきていることから、役員の受け手がなくなったら組織が成り立っていかない。これを、みんなが、地域のことは地域でということであれば、やはり、みんなが入って協力し合えるような組織づくりをせないかんのに、ぐっと大きな枠であれしてしまったから、“そこまでは、私ら、必要ないわ”という形でおっしゃっておるわけなんです。で、あるならば、これ、一度、地域で考えということではなくして、市の方で、そのコミュニティという組織の枠を、どういうふうにして、地域に迷惑のかからないような形に改めるかということを考えていく時期になってきておるのではないかと。というふうな悩みをこの頃持っておるわけです。</p>
E委員	<p>どこも、一緒です。どこの地域も同じことです。</p>
B委員	<p>出来た時のコミュニティは物凄く夢があってということでやってきたが、今は、逆になってきている。足枷になってきている。困ったなど。</p> <p>ごみ出しを見に行きますと、この頃、約束事を守られないんですね。そしたら、そのゴミは役員が持って帰らないかんことになる。そやから、本当にいい加減な組織になってきたなと感じます。そういう意味では、社会教育は大事なんです。</p>
議長	<p>私は学識経験という形ですから、住居は市内ではなく市外です。私も、自分の住んでいる所で、人口8千人の地域の社会教育協議会の、川西という委員長ですか、分区長というのをやっておるんです。まったく、同じ問題なんですけど、ボランティア活動でありながら、途轍もなく忙しくて、</p>

どうしたものかなという地域の問題で、同じ問題なんですけど、ただ、僕は、行政に言ってもあかんと思っているんです。結局、向こう三軒両隣をいかに構築するかということで、僕は、社教の部分では、あと、民生委員さんも全員入っていただいているし、諸団体も、みな来てもらっているんです。ただ、役の成り手がいないということと、自治会との関係もありますし。それで、集まれば、みな同じ顔ぶればかりになってしまうんです。ただ、こういう役をさせていただきながら、そして、ここで、川西市で人権サイドの方の陰ながら支援をさせていただき経験からいくと、やはり、行政も大変だと思うんですよ。結局、地道なんだけど、人との繋がりをいかに大事にして、一つ一つ作っていくかと、5年、10年かかってもしょうがないなと思っています。ですから、社会教育の場面で、公民館活動をやったり、学校支援本部の活動であったり、各グループの動きの中でのつながりを、例えば、あの金太郎のミュージカルなんでも、聞く人のつながりの部分の中で、大切さというのが、時間がかかっても構築していくという作業の営みしかないなと私は思っています。高齢化の問題が出てきているんです。男性軍より、お母さん方のエネルギーを無茶苦茶に感じていて、男性軍は60歳を過ぎても、まだまだ働いている方がほとんどなので、私も70歳を超してしまったんですけど、それぐらいでないと、実は、年齢的には、なかなか地域の部分では動けていない実態があるんですね。ですから、支援本部事業なんかでF委員さんはどう感じてらっしゃいますか。やっぱり、子どもを核としたところの関わりをやっていただいているんだけど、かつてはこの会で回覧板の話も出たんですけど。回覧板、まだ出来ておところはいいんじゃないかということも含めてなんですけど。F委員さん、そのへん、ご意見やございませんか。

F委員

以前、お話ししたかと思いますが、子ども会の代表されている方が、もっと子ども会を、いま、子ども会というのがなくなってきて、学校の中でも子ども会に入っている小学校が7校ぐらいしかなくて、あとは、子ども会というのがなく、どんどん、子ども会の役員をしないといけないので、大変だから脱退したいということになってきてという形で、先程言われたコミュニティの役員とか、そういうのと同じかなと思っていたんですが、以前、私が住んでいる自治会の会長さん、消防にお勤めだった方が、会長になるときの挨拶で、震災の時、やっぱり、遠くの親戚より、お隣同士のつながりが一番大事だということで、この地域をもっとしっかりしましょうとお話されたとき、すごく感銘を受けたんですが、子ども会とか、そういうのをもう一度見直して、コミュニティとか、そういうので、先程言われたみたいに、学校とか行政に頼るのではなく、もっと、自分の住んでいる場所をしっかり固めていかなければと思っているんですけど、学校支援の方でも、子ども会とか、そういうものの、何か今までの形と違う形で、何か、もっと、地域に根付かせていけるような形を考えねばならないなと思って、どうしていいか 分からなくて。

審 議 経 過

NO. 21

B 委員	<p>だから、結局は、高齢者とか、障害を持って、その活動の遂行に困難をきたすというような、役をすることによって出来ないというような人やつたら、抜いてあげると。即、自治会をやめますじゃなくして、役を抜いてあげると。あくまで地域の一員やと。ただ、役が出来ないから回さないだけやというぐらいの気持ちで、全体がまとまってしまえば一番いいんだけど。</p>
議長	<p>ちょっと時間がないので、やっぱり、うちのこういう会議の中で、交流しながら、そういう意識を高めていく一つの事例として、先程、ユネスコのお話なんかをお聞きしながら、やっぱり、一人では、地域では孤立しては生きていけない、どこかで自分自身じゃない形の中のお互いのつながりを大事にする中で学んでいって、そうしたら、自治会を脱会して、我儘な形で、自由にというわけにはいかないという雰囲気というものの大切さというものが。</p>
B 委員	<p>辞めた人は孤立するんですわ。やっぱり、話することがないから。だから、辞めないように指導していかないといかんと。</p>
議長	<p>ですから、こども部が出来て、行政的にも、そして元気のある川西市をという部分の中で、市長部局、本当に頑張っていて、結局、つながり、子ども・若者を中心にしながらコミュニティを作っていく本当に地道な活動の部分だというような捉え方というものをしていかないといけませんので、市の行政に対しては大変だとは思いますが、例えば、教育委員会サイドは、どういう基本的な認識をもって、委員さんが、事務局は別として、そういう見解を求めていっていいんじゃないかなというように思うんです。</p> <p>そうしますと、時間がきまして、次の会議で教育委員さんとはそれぞれ意見交流を遠慮なく、抽象的になるかもわかりませんが、具体的に各委員さんが感じていらっしゃる部分やら、話していただいたらいいと思います。</p>
議長	<p>次に、「案」でまとめている部分につきましては、これは読んでいただきまして、次回の2月22日の最後の会議で、このまとめの部分に入りたいと思っております。</p> <p>今日は、意見交流という形の中で進めてまいりました。まとめることが出来なくて、いい提案をいただいておりますので、任期は本年度で終わりという形なんですね。2年の任期が終わります。</p> <p>あと1回の部分で、最後の案なんかを整理していただいて、本年度、終わりたいというように思っております。</p> <p>事務局の方で連絡事項等はございませんか。</p>
事務局	<p>事務局から、ご連絡させていただきます。</p>

審 議 経 過

NO. 22

	<p>1点目は、次回の社会教育委員の会の関係でございますけど、現委員さんの任期最後の委員の会でございます。2月22日の水曜日、午前10時から市役所の502会議室で開催を予定いたしておりますので、よろしくをお願いいたします。会議室の方ですが、通常は、この202会議室で開催してあるんですが、会場の都合がございまして、5階の502会議室となっておりますので、その点、よろしくをお願いいたします。</p> <p>それと、本日のこの会議終了後、大体3時半ごろから、教育委員さんとの意見交換会を4階の庁議室で予定しております。現在、教育委員会の会議もまだ終わっていないようでございますので、終わり次第、連絡がございまして、この場で待機いただけたらと思っております。</p> <p>それともう一点、先日、ご通知申し上げておりますけども、阪神北地区の社会教育委員協議会の第2回研修会ということで、2月14日、三田の方で開催されるわけでございます。ご返事をいただいております委員さんもございますけども、まだお返事をいただいてない委員さんの中で、お決まりの方、出席・欠席をお伺いできたらと思っております。その点、よろしくをお願いいたします。以上で、ございます。</p>
議長	<p>2月14日、三田の方でございますので、学校支援地域本部を中心に研究されていらっしゃる大学の先生のお話だと思っておりますので、出来るだけ、阪神北の多くの委員さんが集まっていたいただければと思うます。</p>
議長	<p>それでは、これをもちまして平成23年度の第7回の社会教育委員の会を終わらせていただきます。</p> <p>委員の皆さん、あるいは市長部局並びに事務局の皆さん、本当にありがとうございました。ご苦労様でした。</p>